

全自動端子圧着に高速機

日本オートマチックマシン ワイヤハーネス用 マチック ワイヤハーネス用

日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長）は、ワイヤハーネス製造に不可欠な端子と電線を結合する全自動端子圧着機の新機種を1月末に発売する。電線の片端は圧着、もう片端はハンダ付けでき、電線1本当たり1・1秒の高速加工を実現した。消費税抜きの価格は980万円。すでに発売している両端圧着機などの高速機3機種合計で、年間1000台の販売を目指す。



同時にビジネスエンジンアリングと提携し、複数の端子圧着機の稼働状況を遠隔から監視できるIOT（モノのインターネット）システム「稼働データ監視システム」をオプションで提供する。

22日に東京・有明の東京ビッグサイトで開幕するエレクトロニクス製造・実装技術の展示会「第39回インターネーション」に日本オートマチックマシンが投入する全自動端子圧着機の新機種「CPR-OF-HER」

出展、実演する。

新機種の「CPR-OF-HER」は、新たなハンダユニットを搭載。フラックス（ハンダ付け促進剤）ユニットカバーの開閉を正面から背面に変更し、作業者のムダな動きを削減してスムーズな段取り替えを可能にした。

また糸ハンダ供給装置の位置も変更し、ハンダ槽の清掃を容易にした。

想定ユーザーは家電・自動車など民生用ハーネスメーカー。加工可能な電線サイズは、断面が0・08平方ミリ2平方ミリ、切断長さは40ミリ2万ミリ。本体寸法は幅960ミリ×奥行き800ミリ×高さ1500ミリ。